

幼児の気管切開カニューレ抜管による事故とその対応について

平成 17 年 1 月 19 日現在

平成 16 年 12 月の新聞報道より

事故の概要

杏林大学病院（東京都三鷹市）小児外科に入院中の幼児に装着していた気管カニューレが抜け、心肺停止状態になっているのを巡回の看護師が発見。蘇生後、機能回復治療を継続したが、低酸素脳症となった。

当該施設における対応と取り組み

内部調査により、事故原因の調査・分析、事故防止対策の検討を進め、その結果をもとに外部の有識者による外部評価委員会の評価を受けた。

この評価を受け当該施設では、現在以下の事故再発防止策を実施している。

- 気管カニューレの紐のほどけにくい結び方を検討し、統一
- 「子どもの気管カニューレ観察手順」を作成
- 子どもに対する心電図モニターなどの装着基準を作成
- モニター等監視体制の整備
- メーカーに対して、使用上の注意として抜管事故への注意を製品説明書に加えるよう説明書の改訂の要求

尚、上記情報は、当該施設より情報をいただいたものであり、施設名を掲載することについて了承を得ております。事故後の対応や分析の詳細については、杏林大学病院公式ホームページ <http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>、または杏林大学病院 医療安全管理室へお問合せください。

関連情報

日本看護協会では『小児の気管切開カニューレの抜去事故を防ぐ』として、緊急安全情報を 2004 年 9 月 14 日付けで発信しています。詳細は以下をご参照下さい。

http://www.nurse.or.jp/anzen/saisin/2004.8_kanyure.pdf